

日本家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 54 2015年5月18日発行

編集 中里英樹・大瀧友織(庶務委員・広報担当)

発行 日本家族社会学会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学総合人間科学部 田淵六郎研究室

TEL : 03-3238-3783

会長挨拶

善積京子(日本家族社会学会会長/追手門学院大学)

今期の理事会は、現在2年目の中間地点を過ぎたところにいます。前理事会から託された大きな課題である「国際化への対応」への第一歩として、『家族社会学研究』の第27巻第2号(2015年10月末刊行予定)から、英語投稿論文の受け付けを開始しました。この第27巻2号への投稿は残念ながらありませんでしたが、会員の皆様には今後ふるって投稿していただきたいと願っています。

また「国際化への対応」として、2015年大会から英語プログラムを作成いたします。そのために、大会報告者から、英語プログラム作成に必要な英語情報(報告題目・氏名・所属など)を提供していただく必要がありますので、ご協力をお願い申し上げます。

本年の大会は、すでに「大会ニュースNo.1」でお知らせしましたように、9月5日(土)・6日(日)に追手門学院大学で開催します。大会シンポジウムのテーマは「人口減少社会における家族と地域のゆくえ」です。日本はついに人口減少時代に突入し、人口減少の状況でも持続できる社会をいかに創っていくかが問われています。特に、人口減少と高齢化が進行する地方において、地域経済の活性化・地域福祉の持続が緊急の課題になっています。シンポジウムでは、人口減少下における家族の課題・変化や地域のあり方について議論します。そのほかに、テーマセッション・国際セッション・自由報告など多数の企画があります。会員の皆さまの多数の発表やご参加を期待しております。

===== 目 次 =====			
会長挨拶	1	事務局だより	7
日本家族社会学会第25回大会のご案内	2	会員異動(略)	7
理事会報告(略)	3	編集後記	7
各種委員会報告	3		

日本家族社会学会第25回大会のご案内

蘭由岐子（第25回大会実行委員長／追手門学院大学）

本年9月、第25回大会を追手門学院大学で開催することとなりました。追手門学院大学は、大阪北部、いわゆる「北摂」に位置し、「将軍山」と呼ばれる小高い丘にキャンパスがあります。来年2016年には、創立50周年を迎えます。創立当時のキャンパス模様は、本学1期生の宮本輝氏（芥川賞作家）の小説『青が散る』から少しは知ることができます。

最寄り駅はJR茨木駅および阪急茨木市駅となります。JR茨木駅には、新幹線の新大阪駅から快速で10分足らずと便利ですが、キャンパスまでのアクセスで多少ご不便をおかけするかもしれません。他方、広い駐車場がありますので、お車でのご来校を歓迎いたします。また、大会1日目はアサーティブ入試が催されますのでこの点ご留意いただければ幸いです。

交通アクセスをはじめ、詳しいご案内は、7月発行予定の大会ニュースNo.2、大会ウェブサイト、メールマガジンで順次お知らせしますので、ご確認くださいませよう願いたします。

大会実行委員会は、委員長の蘭由岐子、岩淵亜希子（追手門学院大学）、高橋美恵子（大阪大学）、菊地真理（大阪産業大学）、中島満大（学術振興会・神戸大学）の5人で構成いたしました。善積京子会長ともども、精一杯力を合わせてみなさまを追手門学院大学にお迎えする所存でございますので、ぜひふるってご参加ください。



1. 日程： 9月5日（土）、6日（日）

2. 会場： 追手門学院大学 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

JR茨木駅または阪急茨木市駅より、バス約20分（交通状況により大きく変動します）

* 交通路の詳細および大学周辺地図は、大会ニュースNo.2および大会ウェブサイトでお知らせいたします。

3. 参加費等：

大会参加費、懇親会費、お弁当代は以下の通りです。

	大会参加費			懇親会費			弁当 (予約制)	
	事前納付		当日払い	事前納付		当日払い	事前納付	
	郵便振替	カード		郵便振替	カード		郵便振替	カード
一般	3,500円	3,675円	4,500円	4,000円	4,200円	5,000円	1,000円	1,050円
学生	2,500円	2,625円	3,000円	2,500円	2,625円	3,000円	1,000円	1,050円

*なお、キャンパス内にコンビニがありますが、学食は夏期休暇中のためほぼ閉店しております。昼食は、お弁当の予約、もしくはお持ち込みでご用意下さい。

4. 宿泊：

宿泊情報の提供につきましては、各自でご手配下さい。

5. 託児サービス：

大会中、「茨木市立男女共生センターローズWAM託児チーム」による出張託児サービスを学内に準備いたします。利用料は1人1日2000円、半日1000円の予定です。詳細につきましては、大会ウェブサイト大会ニュースNo.2にてお知らせいたします。

6. 大会に関するお問い合わせ：

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学社会学部 蘭由岐子研究室
日本家族社会学会第25回大会実行委員会 E-mail：

ただし、ウェブでの大会申し込み、参加登録、事前納付などについてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

E-mail：

Fax: 03-3368-2827

理事会報告

2014年度第3回理事会（第8期第8回会合）議事録（抄）（略）

各種委員会報告

編集委員会

編集委員会では機関誌『家族社会学研究』第27巻第1号を4月末に刊行し、現在は第27巻第2号の編集作業に取り組んでいます。刊行した第27巻第1号は、このニュースレターとともに会員のみな

さまのお手元にお届けしました。今号には、巻頭エッセイ、投稿論文、特集（昨年東京女子大学での学会大会のシンポジウム「少子高齢化と日本型福祉レジーム」）、政策資料解説（子どもの貧困問題）、書評・文献紹介が掲載されており、多彩な内容となっています。しかし、掲載された投稿論文が1本にとどまったことは残念でした。その原因のひとつには、投稿論文数が6本（うち研究ノートが1本）と少なかったことがあると思われまから、会員のみなさまの積極的な投稿をお願いします。

現在編集中の第27巻第2号は、今期理事会の重要課題である「国際化への取り組み」の具体化である英文による投稿論文の受付を開始した号です。残念ながら初回の投稿はありませんでしたが、こちらの方へも会員のみなさまの果敢な挑戦を期待しています。準備が遅れて申し訳ありませんでしたが、英文「執筆要項」は2月に学会ホームページに公開しましたし、今回お送りした第27巻第1号巻末掲載の「投稿規程」は、英文による論文も投稿できる旨を明記した改訂版になっています。編集委員会としては、任期中にできるだけ早く英文による投稿論文の掲載を実現したいと思っていますので、これらの資料を参考にして投稿を準備していただきますようお願いいたします。

（池岡義孝・早稲田大学）

研究活動委員会

1. 第25回日本家族社会学会大会（2015年9月5日・6日）について

研究活動委員会は、追手門学院大学で開催される大会に向けて準備を進めています。3月9日には、第25回大会オフィシャルサイト（<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2015/index.html>）を開設しました。このサイトへは学会ウェブサイトの「学会大会／研究活動」から入ることができます。また、4月初旬には会員の皆様に第25回日本家族社会学会大会ニュースNo.1をお届けしました。

昨年度から開始した「報告者公募型テーマセッション」の企画申請は3月27日に締め切り、佐々木尚之氏（大阪商業大学）が企画した「Contemporary Family Research」が採択されました。

企画全体提案型テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジなどの企画申請は4月30日に締め切りました。自由報告と「報告者公募型テーマセッション」での報告の申し込みの締め切りは5月29日（金）です。いずれも要旨原稿は5月29日（金）が締め切りです。

報告申し込みは上記の大会オフィシャルサイト上で行ってください。その際にはマイページと同じID（会員番号）とパスワードが必要ですのでご注意ください。多くの皆様からの申し込みをお待ちしています。

大会シンポジウムのテーマは「人口減少社会における家族と地域のゆくえ」です。研究活動委員会の松田茂樹氏（中京大学）と大和礼子氏（関西大学）が企画を練っています。報告者は原俊彦氏（札幌市立大学）、中村真由美氏（富山大学）、沼尾波子氏（日本大学）であり、討論者は廣嶋清志氏（島根大学名誉教授）です。活発な討論が展開されると期待されます。ふるってご参加ください。

国際セッションについては、幼児のいる家族のワーク・ファミリー・バランスについて、スウェーデン、オランダ、ドイツの研究者に登壇していただく企画が寄せられています。

大会では、別刷交換コーナー、書籍販売コーナー、大会報告レジュメコーナーを設けます。

大会参加申込は7月1日からウェブ上で行うことができます。

2. 大会プログラムと要旨集

今年度より、報告要旨はA4サイズで1ページに変更しましたので、作成の際にご留意ください。また、大会プログラムのうち、報告スケジュールの英語版を作成します。報告申し込みの際に、氏名、所属、報告タイトルについて、英語でも入力していただくことになります。

大会要旨集は、今年も印刷物と電子媒体（大会オフィシャルサイトで公開）の要旨集を併用します。大会前に要旨集を読みたいという会員の要請に応じて、電子媒体（PDF）の要旨集は大会直前の9月2日(水)に公開する予定です。

(岩井紀子・大阪商業大学)

庶務委員会・事務局

1. 会員の異動および会勢について

会員の異動は、2015年3月20日時点で、新規会員12名、退会9名、会費減額適用者50名。会員数は738名（一般会員578、学生会員109、減額申請適用会員50、賛助会員1）です。

2. 会費納入状況について

3月20日時点での2014年度の会費納入率は89.3%でした。今後ともすみやかな会費納入にご協力ください。

3. 会費の減額申請について

常勤職にない会員の方は、会費減額申請を行うことができますが、65歳未満の会員については、毎年申請し承認を受ける必要があります。承認の連絡を受けてから会費をお振り込みください。5月末が申請期限となっておりますので、お急ぎください。申請手続きの詳細は、学会ウェブサイトの「お知らせ/人事公募」>「会費減額申請」(http://www.wdc-jp.com/jsfs/notice/not_4.html)に掲載されています。なお、65歳以上の会員の方は、一度承認されれば以後手続きの必要はありません。

4. 学会年会費のクレジットカードによるオンライン決済開始について

昨年より、年会費のクレジットカード決済が可能になっています。マイページよりログインすることで利用できます（カード決済が可能な期間は4月より6月末までの3ヶ月間です）。所定の手数料は利用者の負担となりますことをご了解ください。また、会費減額申請をされた方がカード決済をされる場合は、承認の連絡を受けてからお手続きください。

5. 入会手続き等の国際化について

英語版入会申込書の公開を含め、英語版ウェブサイト上での学会紹介や入会手続案内を更新しました。

6. 庶務委員の増員について

国際化などに伴い広報を中心に庶務業務が増大してきたことを踏まえ、理事会での承認を経て庶務委員を増員し、1月26日付で大瀧友織会員が就任しました。大瀧委員には、今期理事会任期の終了まで、広報などの業務に従事いただく予定です。

全国家族調査（NFRJ）委員会

1. NFRJ データの利用

NFRJ のこれまでのデータ（NFRJ98、NFRJ-S01、NFRJ03、NFRJ08等）は、東京大学SSJ データアーカイブを通して公開しています。学部生の卒業論文や講習会などの教育目的の利用については、引き続きNFRJ委員会事務局が窓口になって学会員に限りデータを提供しています。SSJの申請資格がない会員も、事務局に利用申請することができます。NFRJ-08Panelデータは学内共同利用を行っています。利用をご希望の方は、NFRJ事務局に利用申請してください。その他、NFRJ の最新情報・連絡先などは、ウェブサイトをご覧ください（<http://nfrj.org/>）。皆様の研究・教育活動にデータを是非ご利用ください。

2. 研究会活動

委員会では現在2つの研究会を開催しています。家族社会学パネル研究会はNFRJ-08Panelデータを用いた研究会です。入会をご希望の方は下記ウェブサイトをご覧ください

（http://nfrj.org/fspanelwg_index.htm）。NFRJ18準備研究会はどなたでも参加いただけます。今秋のNFRJ18実行委員会立ち上げに向けて、NFRJの可能性について議論しています。ご関心のある方は委員会事務局までご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしています。

3. 国際化に向けた活動

ICPSRへNFRJ08データを寄託する手続きが終わりました。今後、ICPSRからデータが公表されます。今後、他のデータについても寄託していく予定です。

4. その他

NFRJ08研究会の有志を執筆者とし、NFRJ08を含めたこれまでのNFRJデータを用いた研究書が東京大学出版会から刊行される予定です（編者：稲葉昭英、田中重人、田淵六郎、保田時男）。また、NFRJ-08Panelデータを用いた書籍（ナカニシヤ出版）の刊行も予定しています。

（永井暁子・日本女子大学）

社会学系コンソーシアム評議員

現在の学協会会員数は31です。理事会は、理事長 吉原直樹氏（日本社会学会）ほか理事11名で構成されています。近年の大きな事業は、ISA横浜大会に向けた『世界へのメッセージ』を刊行したことでした。2015年1月24日には第7回シンポジウムが日本学術会議社会学委員会と共催で開催されました。会場は日本学術会議大講堂でした。「現代の雇用危機を考える」がテーマで、家族社会学学会からは宮本みち子が報告者として登壇しました。当日は200名を超える参加があり、活発な討論がありました。理事会においては、「社会学系コンソーシアムはどのような役割を果たし得るのか」で意見交換がされています。参加する学協会から見ると、評議員・理事を出さなければならない、拠出金を出さなければならない、どんなメリットがあるのかわからないという声があることは事実です。この問題は今後とも検討を続ける必要があると思われれます。

（宮本みち子・放送大学）

事務局だより

田淵六郎（事務局長・上智大学）

第8期理事会が発足して1年半強が経過しました。今期の大きな課題は国際化の推進ですが、編集委員会、研究活動委員会ではこの間、国際化に向けて着実な取り組みが進められています。庶務委員会、事務局でもそうした動きを今後もサポートして参りますが、引き続き会員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。学会活動についてのご意見、ご要望などがございましたら、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。

会員異動

（略）

編集後記

1つの期の理事会が発行する6号のニューズレターのうち4号目ということで、折り返し地点に入りました。この号から大瀧友織（大阪経済大学）新庶務委員が編集担当に加わり、学会の重要な情報媒体がより正確かつ意義あるものになるよう、新体制で臨んでいます。引き続き今後の企画記事に関するご提案なども受け付けておりますので、随時広報担当(中里:

、大瀧:

)までご連絡ください。

（中里英樹・甲南大学）